

ふるさとの自然を詠む。

JIKKO HAIKU CONTEST

十湖賞

第3回 俳句大会 入選句集

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

〈発行元〉 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

〈事務局〉 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20-3

TEL.053-424-0115 FAX.053-424-0131

Eメール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

十湖と東区俳句の里づくりについて

松島十湖は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家。さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は七千とも言われ、全国各地に多くの門人がいたとされます。

東区では、こうした十湖の遺徳を称えるとともに「土の詩人」として生きた十湖の心を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催いたしております。

元来、東区内には句碑群が残存しており、同時にまた多くの俳人をも輩出し、俳句のまちとしての側面を垣間見ることが出来ます。

東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「東区俳句の里づくり事業」を行っております。



第三回「十湖賞」 俳句大会入選句集

平成二十三年二月二十六日
於アクトシティ浜松
「研修交流センター」

目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞・教育長賞	6
特選	7
佳作	8・9
努力賞	10・11・12・13

第三回「十湖賞」俳句大会 投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数
573	2,066	1,356	3,133	1,953	4,293	1,053	2,703	4,935	12,195

一般の部・地域別	
地域	投句数
市内	1,304
県内(浜松市別)	314
県外	444
国外	4
合計	2,066

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

委員長 松島 知次

第三回「十湖賞」俳句大会には浜松市、静岡県だけでなく全国から投句をお寄せいただき、投句された方々には感謝申し上げますと共に、主催者として大きな喜びであります。

今回は、前二回の応募方法を変更し、初心者部を取り止め、その代りに高校生の部を設けました。高校生の部は静岡県内の高校に限定しましたが三千句を超える応募がありました。一般の部につきましても二千句を超える投句があり確実に増えております。少し残念なのは静岡県外からの投句は第二回より減少しました。全国的には俳句大会は各地で催しされつつありますが、そんな中でも十湖賞俳句大会はこの三回を通して着実に発展を遂げております。

終りに、表彰された方々に対しまして、感謝とお祝いを申し上げます。

浜松市東区長 高林 泰秀

私たちの東区は、人口約十三万人、活力にあふれ暮らしやすさを実感できる区です。広域交通・物流の要衝として発展してきた東区は、東名浜松インターチェンジがあるほか、国道一号、浜松環状線などの幹線道路も整備され、人ともが行き交う地域となっております。

一方、歴史的な地域資源も豊富で、特に全国に類をみないほど多くの句碑があります。静岡県内の天竜川以西にある句碑は句数にして約九百句。そのうち、約四百句が東区に集中しております。そしてほとんどが、旧派の宗匠・松島十湖とその門流、すなわち郷土の人々によるものです。

こうした地域資源を活かし、東区の魅力を高めるため、市民主体による「俳句の里づくり」が進んでおります。第三回「十湖賞」俳句大会も、「ふるさとの自然」を句題に、全国から1万2195句の作品が寄せられましたことは、非常に喜ばしいことであります。

結びに、募集句のご選考をいただきました選者の方々には、心から敬意を表しますとともに、ご応募いただいた皆様に深く感謝を申し上げます、ご挨拶いたします。

十湖大賞

【一般の部】

鳧鳴いて日差し優しくなりけり

浜松市浜北区 小栗 百合子

評 鳧（けり）と言う耳馴れない鳥の名であるが、姿も繊細で鳴き声も美しい野鳥の一つである。この鳥に向い合った作者の清らかな姿を垣間見て十湖大賞として載いた。句の調べもこの鳥に相応しい響きで表現された。

十湖賞

【高校生の部】

ひまわりが小さく見える十七歳

二俣高校 三年 中村 和喜

評 「ひまわり」と対面したときの感慨を率直に詠む。実際にはこのひまわりは大きかったに違いない。それを「小さく見える」と表現したところに、若者の自負と反骨が垣間見える。ここがポイント。未来に聞かれた作品である。

【中学生の部】

元旦に大天竜の水の音

笠井中学校 一年 桑原 実生

評 瀬音に耳を傾け、天竜川を「大天竜」と視野を全開。元旦のあらたまった少年の心は素直に、大人もびつくりする程の感性で眼前の風景を描写。五感を通して名詞だけで構成。だから力強い。

【小学生の部】

手のひらで耳をおさえるからっ風

与進小学校 六年 山本 琢巳

評 遠州の西部では、冬になると北西から強い風が吹きます。「空っ風」と呼ばれるこの季節風の激しさを、「手のひらで耳をおさえる」という表現が、よく表しています。頭をすはめ、顔をしかめている様子まで、ありありと見えてくるようです。



東区長賞

〔一般の部〕

わらんべに馬の擦り寄る冬の霧

岩手県奥州市

岩淵

正力

県教育長賞

〔高校生の部〕

一球も絶対落とすな鯛雲

浜松市立高校 二年

長谷真奈実

市教育長賞

〔中学生の部〕

土手歩く僕と夕日と赤とんぼ

中郡中学校 三年

墨岡

聖人

〔小学生の部〕

空を見て未来を想うふじの花

笠井小学校 六年

相羽美智子

特選

〔一般の部〕

藤は実にも洩れ日遊ぶ百句塚

浜松市中区

松本

隆人

日本の色を重ねし秋の山

浜松市中区

原

百合子

〔高校生の部〕

虎落笛授業が終わる五分前

浜松市立高校 二年

上柿

奈穂

雨上がり土の香まとう初浴衣

静岡城北高校 三年

櫻

美里

〔中学生の部〕

水田やおおつてうつす空の青

笠井中学校 二年

川合

美里

天竜にいつびきのたか飛びまわる

天竜中学校 一年

椎木亜由美

〔小学生の部〕

最後まで笑顔でいたい卒業式

与進小学校 六年

松本

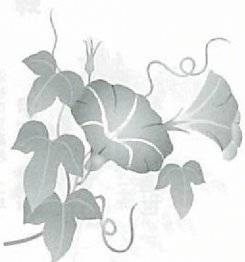
奈々

トラックにのって馬きた夏まつり

有玉小学校 二年

鈴木

実央



【一般の部】

飽食に病を得たり敗戦忌

北海道北斗市
松尾 一子

日と風につぶやき始む干大豆

浜松市東区
河村あさゑ

暴れ天竜治めし翁実南天

浜松市東区
田中美保子

高波にさらはれてゆく盆のもの

浜松市浜北区
太田 依子

差羽来る海岸沿ひの理髪店

東京都練馬区
渡辺千佐子

潮の香の届く校舎や卒業す

浜松市中区
佐藤たえ子

【高校生の部】

静かなる湖面を進むはアメンボウ

二俣高校 一年
竹内 佑真

凍てる身をやさしくつつむ家族の和

浜松市立高校 二年
丸山実沙紀

淋しさを閑かに菊が紛らわす

二俣高校 一年
松山 瑳姫

黒板と黒板消しと雀の子

浜松市立高校 二年
井上 達也

キリストの像を拝むよ冬の蜂

浜松市立高校 二年
伊藤 章歩

春近しお菓子片手に英単語

浜松市立高校 二年
竹田 迪世

【中学校の部】

学び舎にたまの来賓紋白蝶

積志中学校 三年
井口 直輝

水色の空には淡く月の影

浜松学芸中学校 三年
大石 柚菜

春きたる生あたたかい鳥のふん

中郡中学校 三年
酢山 巧登

冬富士に負けぬ心を志す

笠井中学校 二年
近藤 朱莉

青い空自由に遊ぶつばくらめ

笠井中学校 一年
村田 秀征

マフラーを買いに行こうよ赤電で

積志中学校 二年
吉岡 芽音

【小学校の部】

グラウンドでバットふる先とんぼとぶ

与進北小学校 六年
平野 由知

ぶらんこに乗ったらとどく春の空

与進小学校 六年
鈴木 梨音

アオ虫はキャベツの中で運動会

中郡小学校 六年
高橋 優介

雪とけて山の素顔が見えてくる

北浜南小学校 六年
池沼 百音

いちようの葉黄色い雨が降っている

積志小学校 六年
石岡 星香

ねこじゃらし風と遊んで日がしずむ

蒲小学校 六年
澤木 華



努力賞

〔高校生の部〕

ブランコをこげば近づく青い空

春野高校 一年
片桐 彩美

木枯しに悪態をつく帰り道

静岡城北高校 三年
海野 友梨

月高く暮れゆく浜に風の跡

浜松大平台高校 二年
板倉佑里香

月明かり吐く息白く走り出す

二俣高校 三年
三浦 玲伽

渡り鳥勉強よりも部活だろ

浜松市立高校 二年
鈴木 海渡

霜柱踏むと音鳴るふるさとよ

浜北西高校 二年
中野穂奈美

タニシとり仲よく並んだ田んぼ道

浜名高校 三年
小澤 美和

幼子の手に遊ばれて金魚たち

二俣高校 三年
永井 貴大

歩くたび音を奏でる枯れ葉たち

二俣高校 三年
天野 史織

カーネーション高まる鼓動が手の中に

静岡城北高校 三年
新村夏菜子

春雪の溶けぬ思い出よみがえり

静岡城北高校 三年
中原正太郎

壮絶な姉妹ゲンカよ蜜柑の木

浜松市立高校 二年
野澤 夏美

現文は眠いよぼぼ紅葉散る

浜松市立高校 二年
新村 知香

〔中学生の部〕

ソメイヨシノ花びら散らしてきた海

笠井中学校 三年
野々部彰紀

真っ青の空に大きな積乱雲

積志中学校 三年
岡田紗佑里

ゆっくりと春の光が歌になる

積志中学校 一年
石橋 梨咲

手にふれる少し強気な秋の風

北浜東部中学校 一年
鈴木毬里衣

地におちたかれ葉を集めてさあ練習

与進中学校 二年
伊藤 樹

透き通る池の水を手に乗せて

天竜中学校 一年
石田 晃一

なにもないたんぼからくるなつかしさ

笠井中学校 三年
高倉 昂汰

散歩道きんもくせいの香る家

積志中学校 二年
高林 睦菜

憂鬱な心を晴らす初日の出

笠井中学校 三年
清水めぐみ

君のため四つ葉探してはや五分

笠井中学校 一年
森川 葉月

ささんかとあいさつ交わす通学路

中郡中学校 一年
古川 紗椰

よたよたと荷物を運ぶ蟻の親

天竜中学校 三年
岡戸 円加

初日の出今年一年の力こぶ

笠井中学校 二年
鈴木 綾乃

夏空をうつしてプールはより深く

笠井中学校 二年
堀内 梨未

「中学生の部」

秋茜飛び交う中で素振りする

中郡中学校 三年
墨岡 伸浩

桜咲く新しい自分歩きだす

与進中学校 三年
馬淵 香璃

ゆりが咲き家族みんながしあわせだ

積志中学校 一年
平松 史帆

新緑やまぶしさ言葉にできなくて

笠井中学校 二年
小島 大志

天龍の川と風駆け下りる

天龍中学校 二年
袴田 彩子

おばあちゃんセロリのおいが風に乗る

笠井中学校 一年
木村侑里子

髪そよぎ金に波うつ稲穂かな

笠井中学校 二年
松島 朱里

「小学生の部」

夏休み夜の浜辺によせる波

中郡小学校 六年
伊東 優真

炎天下雑草強し人弱し

与進小学校 六年
小林 和樹

大火花どちらを見ようか空と川

豊西小学校 三年
河合 正弥

イチヨウの木いつもボールがひっかかり

豊西小学校 六年
澤田 真子

さくらんぼゆらゆらゆれてふたりでね

笠井小学校 六年
鈴木麻衣子

空は海魚のうろこいっぱいだ

船越小学校 五年
水口 悦良

ザリガニを見つけた時は砂けむり

与進小学校 六年
池田 一総

「小学生の部」

暑すぎる天童川に石投げる

和田東小学校 五年
櫻井 佳子

親鳥にかもの子たちがついていく

笠井小学校 六年
鈴木 雅世

授業中いつもまどからせみの声

蒲小学校 六年
木村かのん

やまびこのひびく山あいもみじ色

中ノ町小学校 六年
河村 凌平

夕やけにむかっつてのびる帰り道

有玉小学校 六年
松原有梨沙

母の日にはずかしいけどありがとう

与進小学校 六年
横須賀礼奈

鬼は外心の中をそっじする

中ノ町小学校 六年
戸田 稜真

⑨ 梟けり

虎落笛 もがりぶえ

実南天 みなんでん

紋白蝶 もんしろちよう

秋茜 あきあかね(とんぼ)

カマキリが葉っぱの下で雨宿り

与進小学校 六年
北川 由菜

見てみたいとかげのしっぽ切れるとこ

豊西小学校 二年
鈴木 貴大

